

関係を育てる心理臨床

治療の三角形をどうつくるか

～ 三角形の対話する関係を育てていくこと～

* 当財団(講座)は「臨床心理士」資格取得者の研修機会として、(公財)日本臨床心理士資格認定協会より「短期研修機会(ワークショップ)」の承認を受けております。 <承認期間:2017年7月1日～2022年6月30日 承認番号:W29111>

期 日：2019年10月12日(土)・13日(日)

受講対象：臨床心理士・看護師・保健師・保育士・相談員・教師など、医療や福祉・教育・相談・子育て支援などに携わっている専門家、大学院生、および関心のある方々

定 員：60名(定員になり次第締切りますのでホームページなどでご確認ください)

受講料：13,000円(税込み) ※昼食は各自おとりください

主催：公益財団法人 明治安田こころの健康財団 ☎03-3986-7021

会場：明治安田こころの健康財団 講義室 ※詳細地図は受講証に添付いたします

東京都豊島区高田3-19-10

JR山手線・西武新宿線・東京メトロ東西線「高田馬場駅」下車徒歩約7分

* 企画講師(敬称略)：田中 千穂子 / 学習院大学文学部心理学科 教授
花クリニック 臨床心理士、文学博士

この講座も13年目を迎えました。毎年私の話と、みなさまから提示していただいたケースを検討してゆくというスタイルで行っています。今年は「治療の三角形」という、とてもむずかしいけれども重要なテーマを掲げてみました。

セラピーをしていると、私たちセラピストはクライアントから「私が悪いっていうの!」と怒鳴られたり、「(あなたと私の)どっちが正しいのよ」とせまられたり、「淋しいよ、(あんたが)何とかしてよ!」と言われたり、といった二者関係の畏にはまって身動きできなくなることがしばしばあります。セラピストがクライアントとの関係を深めるために、二者関係に誘い込んでしまい、その結果ぬけだせなくなることもあります。

この問題について私の師である神田橋條治先生は、次のように語っています。対話という現象は2つの部分からなっている。ひとつは関わりの水準で声や身振りといったものがやりとりされる。そこにあるのは「わたし・あなた」という二者の関係。いまひとつは「…について語りあう」「…のことをふたりで観察し意見を出しあう」という、言葉を活用したヒトに特有の関係のありよう。そこには「わたし・あなた」と、いまひとつ「話題とかテーマ」という第三の存在が登場する。これが治療の三角形。二者関係の対話は関係を深め、三角形の対話は共同作業の活動である。この三角形の対話関係をどのように育てるかということが、対話心理療法のポイントである(「初診者のてびき」を要約)。

クライアントの抱えているテーマとクライアント自身をわけて、どのように三角形の対話の小さな芽をみつけて根気よく育てていくかがポイントである、とも神田橋先生は語っています。私はセラピーで三角形の底辺の両端に自分と相手がいて、何をどういう風に三角形の頂点にもってこれるか、とうんうん唸りながら考えます。このテーマはどのケースにも大なり小なりみられるでしょう。どのようなケースでも、この視点からていねいにみてゆくことは可能だと思うので、積極的にケース発表にアプライしてください。 <田中 千穂子>

	日程	時間	テ マ
プログラム	10月12日 (土)	13:00~17:30	初日も2日目も、私自身が考えていることを講義として提示しつつ、提出していただいたケースを織りまぜながら進めてゆきたいと考えています。
	10月13日 (日)	9:00~12:00	同上
		12:00~13:00	昼食(各自おとりください)
		13:00~16:00	事例検討・講義ほか

※ 講義の途中、1~2時間の単位で、適宜休憩時間を入れます。

※ 事例の提出締切は9月12日(木)です。用紙につきましては、HPの申込書欄から取りだせます。

ご不明な点は、事務局にお問い合わせください。